

## Ⅱ 本県競技スポーツの現状

# 本県競技スポーツの現状

## A. 本県の競技スポーツをとりまく環境

### 1 児童・生徒の状況

#### (1) 子どもたちの体力・運動能力

区分	男子	女子
小学5年生	全国 1位 58.30点(54.36)	全国 1位 59.96点(54.89)
中学2年生	全国 1位 45.94点(41.71)	全国 1位 52.99点(48.14)

出典：平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 8種目合計点 ( )は全国平均  
 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、本県の小学5年生、中学校2年生とも体力・運動能力は、男女とも全国1位である。このことから、本県の小中学生の体力・運動能力は全国的にみて非常に高いレベルにある。

#### (2) スポーツ少年団活動

	2001年	2010年
児童数	51,601人	46,764人
団員数	12,619人	11,750人
加入率	24.5% 【全国加入率 11.0%】	25.1% (全国 7位) 【全国加入率 10.9%】

出典：福井県スポーツ少年団調査

スポーツ少年団団員数は全国加入率の平均を大きく上回っており、小学生から日常的にスポーツをする習慣の高さがあらわれている。

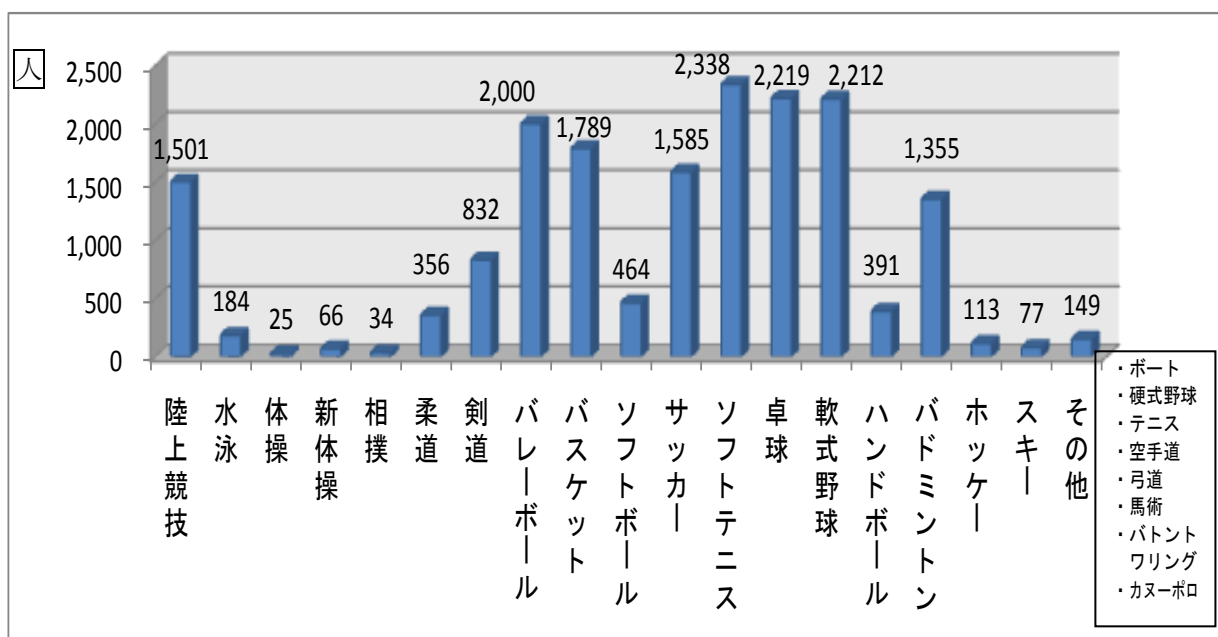
#### (3) 中学生の運動部活動状況

##### ①部活動参加数

	2001年	2010年
生徒数	28,322人	24,498人
登録数	19,766人	17,264人
加入率	69.8% 【全国中体連加入率 66.0%】	70.5% 【全国中体連加入率 64.1%】

出典：福井県中体連調査 (全国中体連加入率は本県登録運動部活競技数にあわせて算出)

## ②競技別部活動加入状況



中学生の運動部活動加入率は全国平均を上回っており、平成30年福井国体開催時に、成年種別において活躍が期待される年代である本県中学生の多くが、スポーツ活動に積極的に取り組んでいる状況がうかがえる。

また、競技別では、ソフトテニス、卓球、軟式野球、バレーボールなどの加入割合が高い。

## (4) 高校生の運動部活動状況

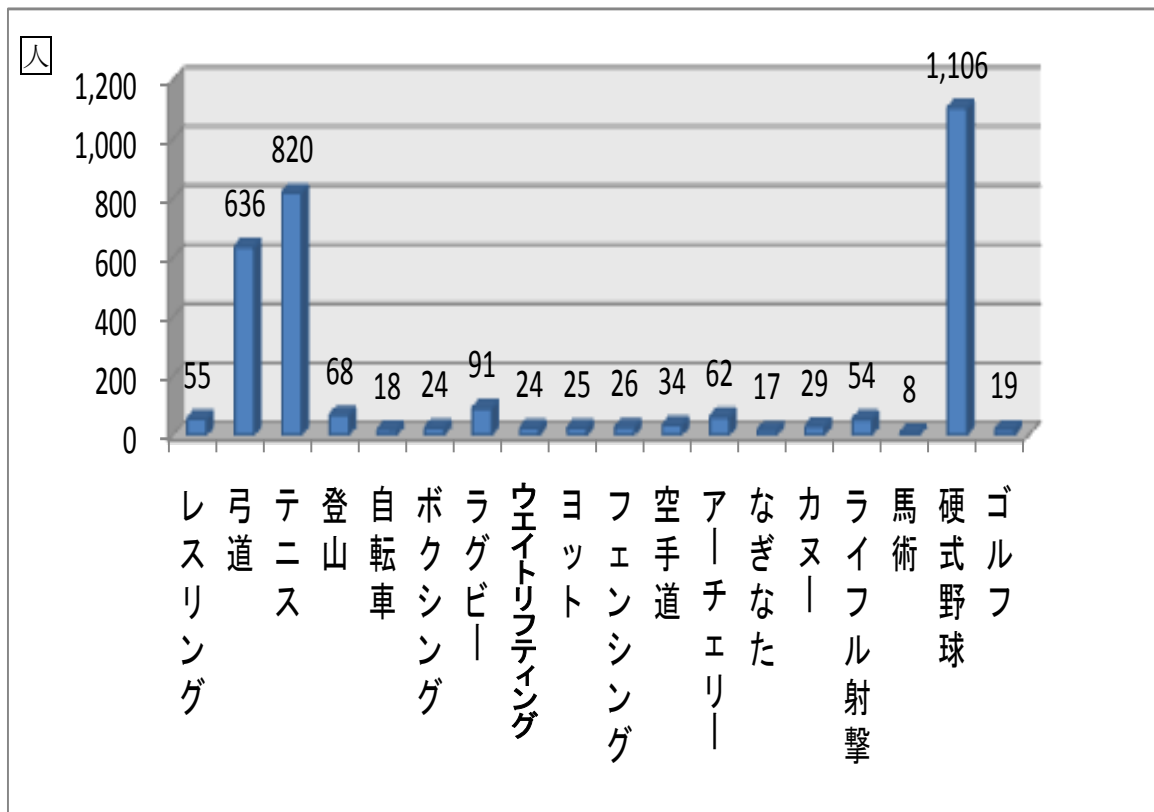
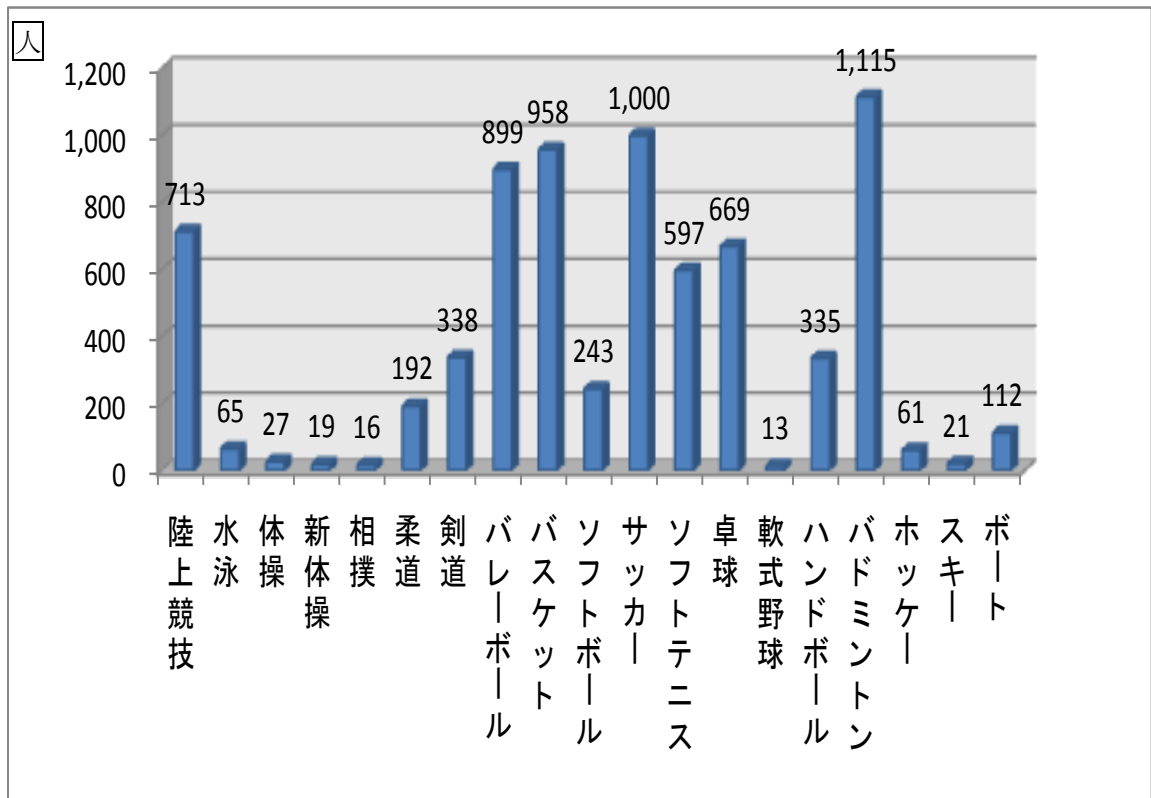
### ①部活動参加数

	2001年	2010年
生徒数(全日制)	27,723人	22,744人
登録数	11,429人	10,509人
加入率	41.2% 【全国高体連加入率 33.8%】	46.2% 【全国高体連加入率 36.4%】

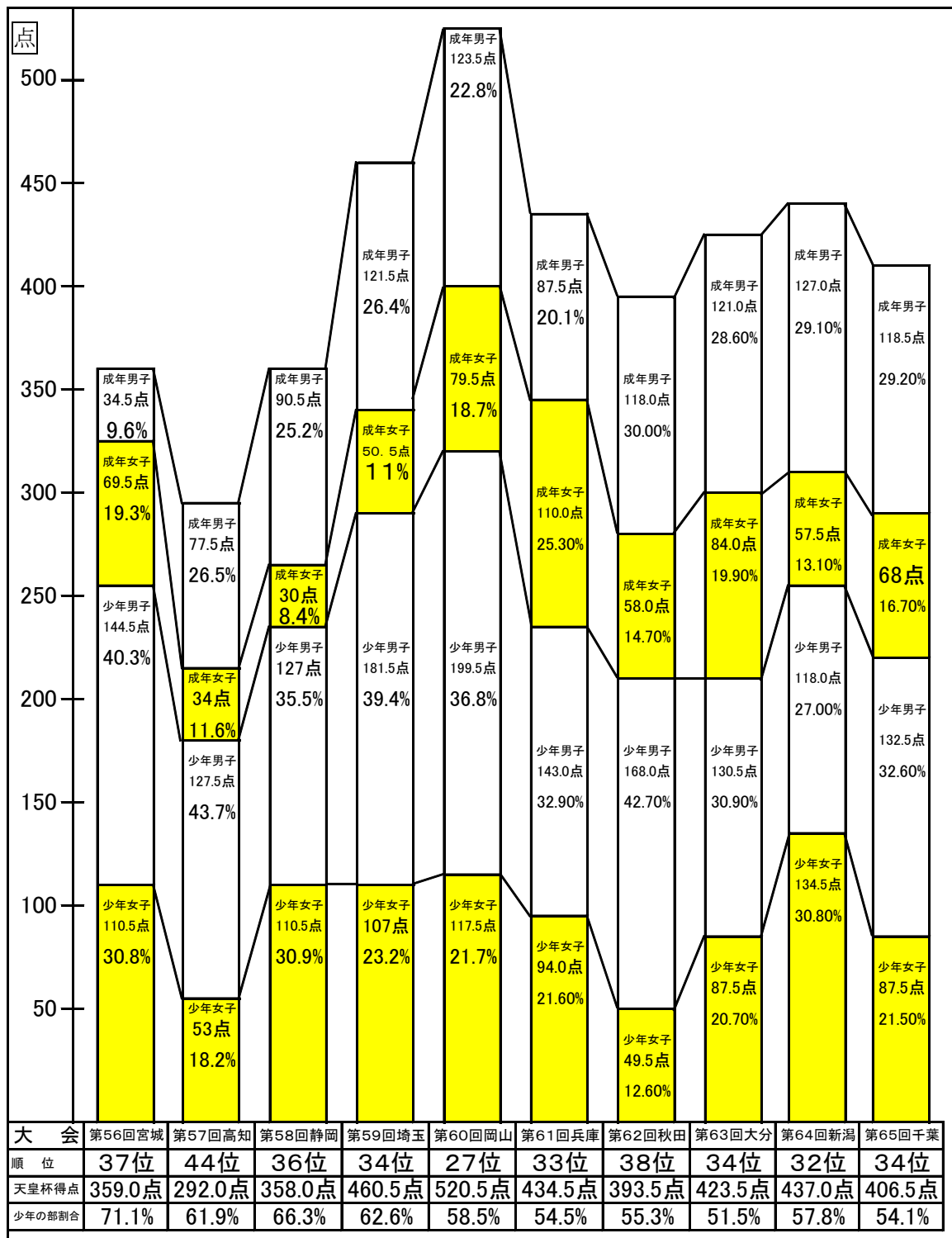
出典：福井県高体連調査

(全国高体連加入率は全国高体連加盟競技で算出、本県は硬式野球含む)

②競技別部活動加入状況



③国体総合成績・種別得点の推移（競技得点）



高校生の運動部活動加入率も、全国平均を上回っており、競技別では、バドミントン、硬式野球、サッカーなどに加入している割合が高い。

国体における得点割合は成年種別より少年種別が高く、本県では、高校の運動部活動に依存している部分が高いといえる。

また、国体少年種別で例年入賞できる力を持つ競技は、ボート、自転車、ハンドボール、ウエイトリフティング、ゴルフ等である。

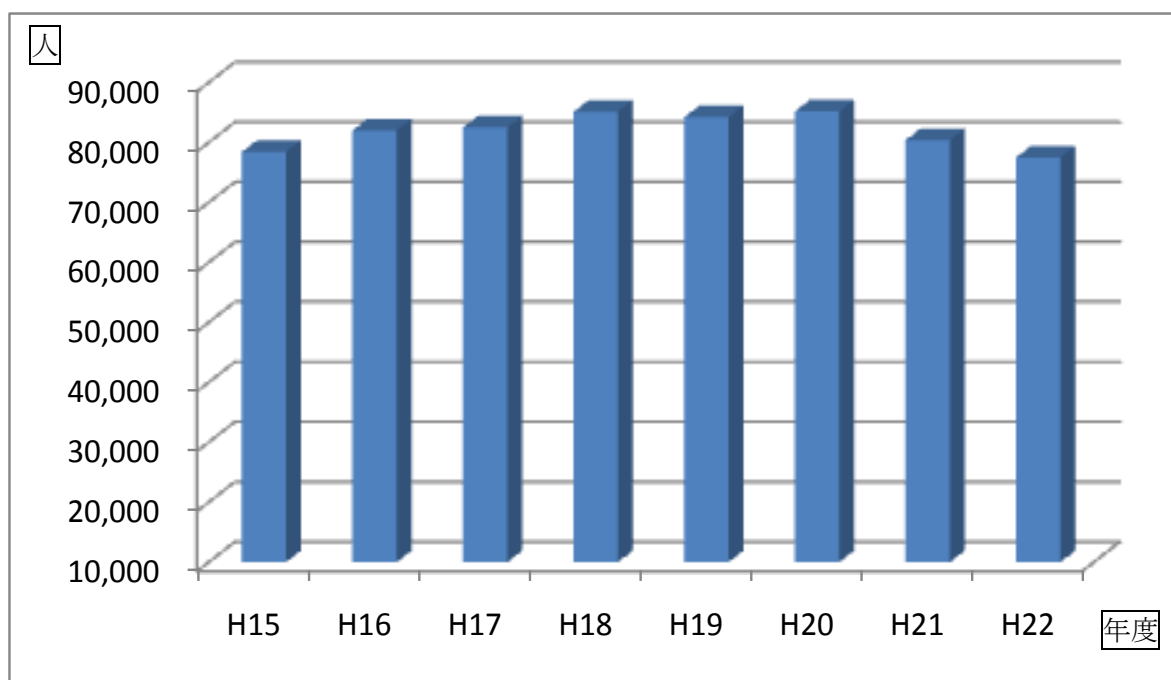
## 2 大学生の状況

県内には、大学・短期大学等が8大学あり、スポーツクラブは、延べ119クラブが活動している。県内大学に在学し、国体に出場した監督・選手は、過去5年間で41名（延べ人数）であり、成年種別選手の16.6%を占めている。

競技別では、馬術、カヌー、空手道など個人競技での出場である。

## 3 競技団体、総合型地域スポーツクラブの状況

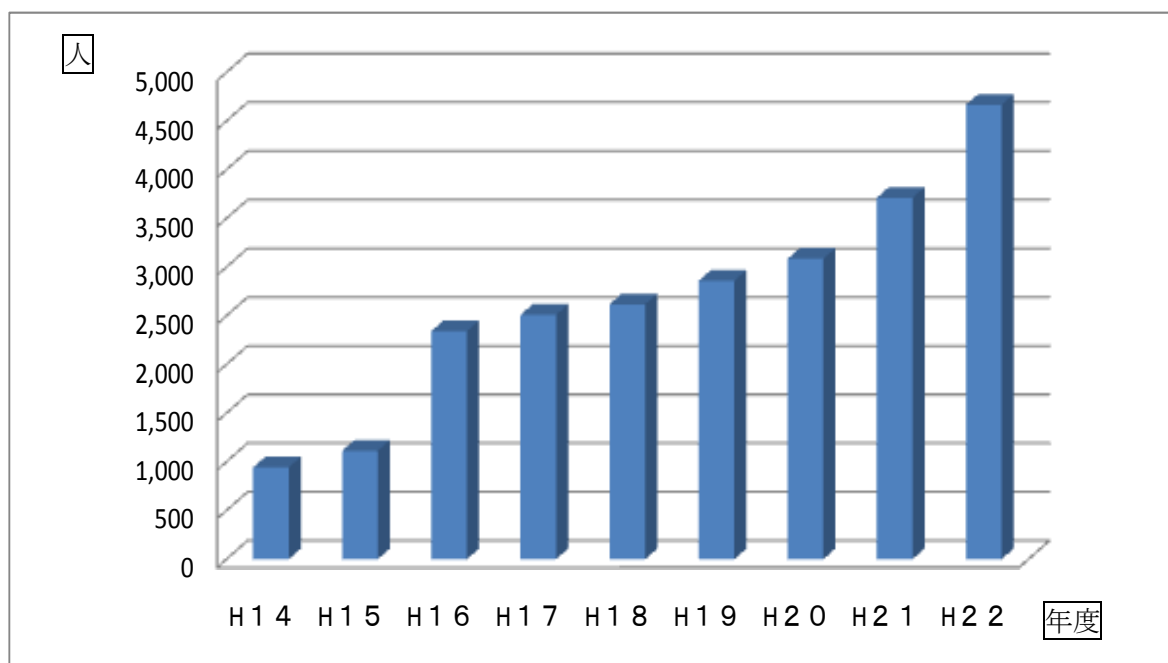
### (1) 競技団体登録者数



出典：(財) 福井県体育協会調査

(財) 福井県体育協会加盟の国体正式競技（トライアスロン競技を含む41競技）の団体登録者数は、概ね80,000人前後で推移し、近年減少傾向にある。

## (2) 総合型地域スポーツクラブ会員数



出典：県スポーツ保健課調査

県内の総合型地域スポーツクラブ数は20クラブ（平成23年3月31日現在）が設立され、地域スポーツ活動の拠点となっている。

これらの中で、競技スポーツとしての取組みをしているクラブは3クラブ（サッカー、ホッケー、陸上競技）あり、競技スポーツの拠点ともなっている。

（平成22年度より、これらのクラブでは、県広域スポーツセンター機能強化事業として、地域におけるトップレベル競技者の育成や指導者の資質向上に取り組んでいる。）

## 4 ふるさと選手の状況

	第61回(兵庫)	第62回(秋田)	第63回(大分)	第64回(新潟)	第65回(千葉)
ふるさと選手数	77	60	70	72	63
成年種別選手数	205	212	207	206	175
ふるさと選手の占める割合	37.6%	28.3%	33.8%	35.0%	36.0%

※ふるさと選手数は、本大会出場選手数

国体出場選手で「ふるさと選手制度」を活用した本県選手は、1大会あたり、68.6人であり（過去5年間平均）、県外在住の大学生が大半である。

平成22年の千葉国体に「ふるさと選手制度」を活用した選手は全国平均で58.5人（長崎県調査から算出）であり、本県の同制度の活用は全国平均より高いといえる。

## 5 指導者の状況

〔人口千人当たりの指導者数〕

(1) 指導員 (学校区や住居地域で競技の指導にあたる者)	<u>全国 4位</u>
(2) 上級指導員 (市町選抜レベル競技者の指導にあたる者)	<u>全国 44位</u>
(3) コーチ (県レベル競技者の指導にあたる者)	<u>全国 5位</u>
(4) 上級コーチ (全国レベル競技者の指導者にあたる者)	<u>全国 12位</u>

※ 平成22年10月1日現在、(財)日本体育協会

本県では、学校区や住居地域で活動する指導員数が多く、子どもたちにスポーツの楽しさを教えることにより地域スポーツの支えとなっている。

一方、上級指導員数は、全国下位であり、より高い競技力を目指す子どもたちのための、指導技術のレベル向上が課題である。

また、コーチ・上級コーチ数は全国に比べて多く、本県の世界を目指したアスリートの育成を担っている。

## 6 企業スポーツの状況

国体出場等を目指して常時活動している選手を有する県内企業

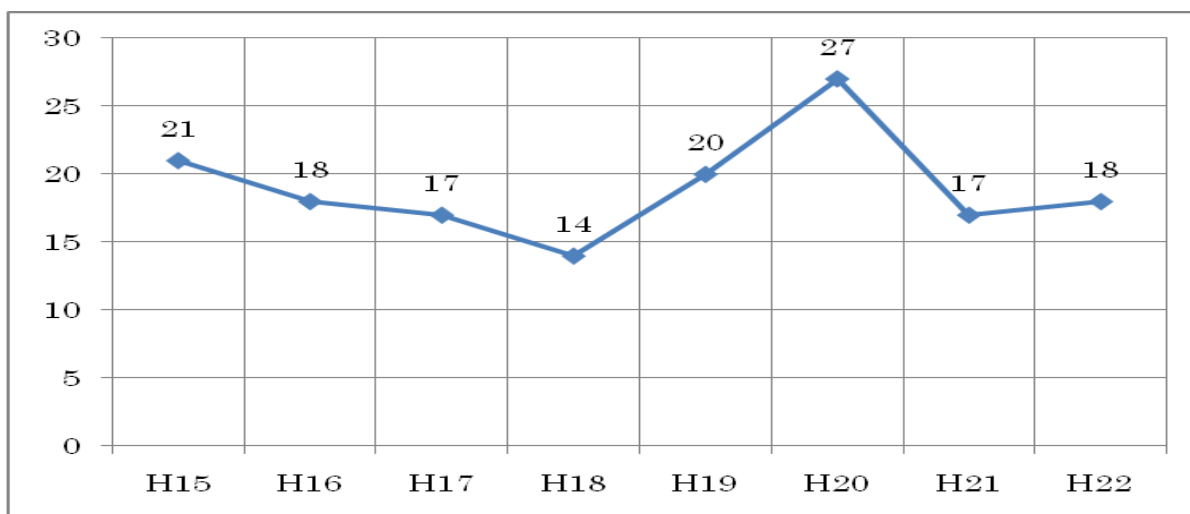
- ・セーレン株式会社 …………… 陸上競技、軟式野球、  
バドミントン (日本リーグ2部)
- ・株式会社ユティック …………… 陸上競技
- ・関西電力株式会社 …………… ボート競技
- ・北陸電力株式会社 …………… ハンドボール (日本リーグ)
- ・江守商事株式会社 …………… 軟式野球
- ・キョーセイ株式会社 …………… 軟式野球

上記企業は、高校や大学を卒業した本県の優秀選手を積極的に受け入れ、選手をサポートしており、成年種別強化の中心的存在となっている。



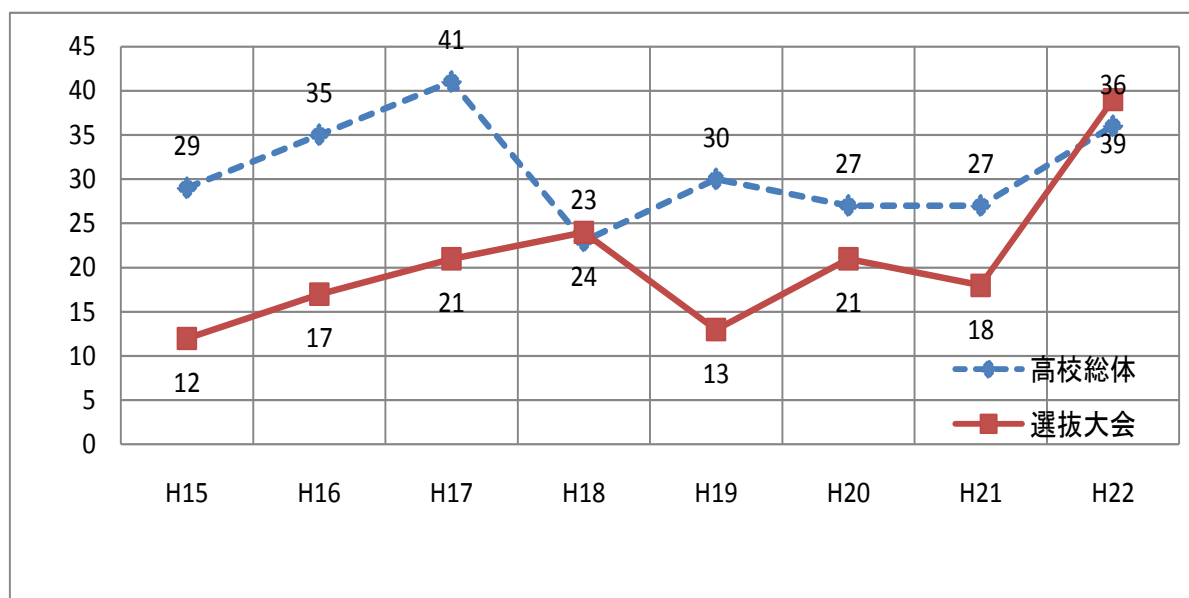
## B. 本県の競技力の状況

### 1 全国中学校体育大会における本県選手の成績（入賞数）



全国中学校体育大会における入賞数は、平成20年度には本県開催大会のハンドボール、バドミントン、卓球競技の活躍により入賞数が伸びたが、例年、個人・団体で概ね17～18の入賞数である。

### 2 全国高校総体、全国高校選抜大会の成績（入賞数）



高校総体と選抜大会の入賞数は、年次により多少のばらつきはあるものの、高校総体の入賞者数が多い。このことは春に行われる選抜大会から夏の高校総体までに、順調に選手強化が進んでいるといえる。

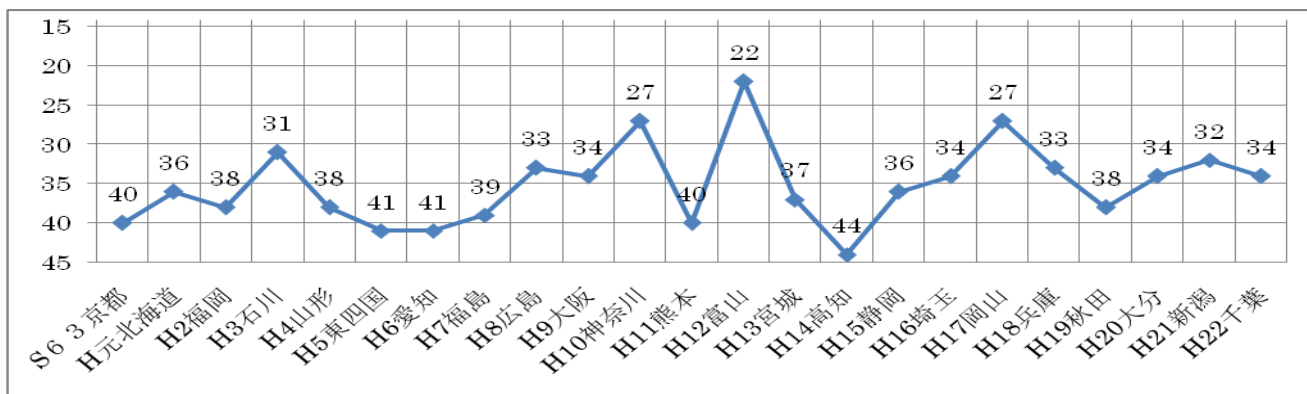
### 3 千葉国体（平成22年）における少年種別の全国比較

県名	少年男子		少年女子		合計		国体開催時期
	競技得点	順位	競技得点	順位	競技得点	順位	
北海道	257.5	9	209.0	7	466.5	9	
青森	164.0	22	113.8	21	277.8	22	
岩手	125.5	31	59.0	40	184.5	37	平成28年
宮城	158.0	24	93.5	29	251.5	26	
秋田	105.0	40	107.5	24	212.5	32	
山形	114.5	38	100.5	27	215.0	31	
福島	121.0	34	40.0	44	161.0	42	
茨城	205.0	18	128.0	19	333.0	17	
栃木	215.0	16	53.5	43	268.5	24	
群馬	121.0	34	80.0	32	201.0	35	
埼玉	448.5	3	193.5	10	642.0	5	
千葉	689.5	1	501.5	1	1,191.0	1	平成22年
東京	391.0	5	358.5	3	749.5	2	平成25年
神奈川	464.5	2	284.0	4	748.5	3	
山梨	122.0	33	105.5	25	227.5	28	
新潟	201.5	19	96.0	28	297.5	19	
長野	221.5	15	130.5	17	352.0	15	
富山	108.5	39	109.5	23	218.0	30	
石川	188.5	20	101.0	26	289.5	20	
福井	117.5	37	87.5	30	205.0	34	平成30年
静岡	233.5	11	140.5	14	374.0	13	
愛知	315.5	8	378.0	2	693.5	4	
三重	92.5	43	76.0	34	168.5	40	
岐阜	223.5	13	151.0	13	374.5	12	平成24年
滋賀	142.0	26	87.0	31	229.0	27	
京都	233.5	11	194.0	9	427.5	10	
大阪	389.0	6	233.0	5	622.0	7	
兵庫	325.5	7	209.0	7	534.5	8	
奈良	139.5	27	26.0	47	165.5	41	
和歌山	159.8	23	63.0	36	222.8	29	平成27年
鳥取	95.5	42	33.0	46	128.5	45	
島根	138.5	28	60.0	38	198.5	36	
岡山	250.0	10	117.5	20	367.5	14	
広島	182.5	21	139.5	15	322.0	18	
山口	154.5	25	110.5	22	265.0	25	平成23年
香川	223.0	14	163.0	12	386.0	11	
徳島	51.5	46	55.0	42	106.5	46	
愛媛	131.5	30	137.5	16	269.0	23	平成29年
高知	50.5	47	36.0	45	86.5	47	
福岡	406.5	4	233.0	5	639.5	6	
佐賀	65.5	45	67.0	35	132.5	44	
長崎	133.5	29	77.0	33	210.5	33	平成26年
熊本	96.0	41	186.0	11	282.0	21	
大分	212.5	17	130.0	18	342.5	16	
宮崎	83.0	44	60.0	38	143.0	43	
鹿児島	123.5	32	57.5	41	181.0	38	
沖縄	120.0	36	61.0	37	181.0	38	

平成22年千葉国体での少年種別の成績をみると、本県は男子37位、女子30位、少年種別合計で34位であり、天皇杯順位と同じであった。国体開催予定都県の順位をみると、山口県、岐阜県、東京都など開催を間近に控えている都県は20位台以上を占めており、少年種別強化が進んでいる。

## 4 国民体育大会の成績の推移

### (1) 本県の天皇杯順位の変化



国体開催2巡目の京都国体以降、本県の天皇杯順位は、概ね30位台後半から40位台前半を推移してきた。その中で、平成14年の高知国体において44位と低迷したため、県による競技力向上対策事業の見直しが行われ、成果主義に立った強化事業に転換した。その結果、天皇杯順位を上げることができたが、依然として目標としている20位台を確保できない状況である。

### (2) 本県の競技別得点の推移

NO	競技名	第61回 兵庫(H18)	第62回 秋田(H19)	第63回 大分(H20)	第64回 新潟(H21)	第65回 千葉(H22)	最大獲得 可能得点	平均 得点率(%)
1	陸上	35	19	29	26	27	248	10.97
2	水泳	12	15	0	0	0	520	1.04
3	サッカー	0	0	0	20	0	192	2.08
4	テニス	21	0	9	12	9	96	10.63
5	ボート	116	130	147	145	179	288	49.79
6	ホッケー	20	20	20	0	0	256	4.69
7	ボクシング	10.5	8	7.5	0	0	80	6.50
8	バレーボール	0	0	0	0	0	288	0.00
9	体操	18	15	12	36	18	136	14.56
10	バスケットボール	27.5	12.5	12.5	12.5	0	160	8.13
11	レスリング	14	7.5	7.5	13	5	104	9.04
12	セーリング	0	4	0	0	7	112	1.96
13	ウエイトリフティング	13	10	22	7	20	112	12.86
14	ハンドボール	12.5	40	12.5	40	47.5	160	19.06
15	自転車	41	33	12	19	43	150	19.73
16	ソフトテニス	0	0	0	0	0	160	0.00
17	卓球	0	0	0	0	0	96	0.00
18	軟式野球	0	8	12	0	0	64	6.25
19	相撲	0	0	0	0	0	64	0.00
20	馬術	0	0	7	2	5.5	184	1.58
21	フェンシング	33	18	18	39	9	144	16.25
22	柔道	0	0	0	0	0	128	0.00
23	ソフトボール	0	0	36	0	0	256	2.81
24	バドミントン	21	18	7.5	0	0	96	9.69
25	弓道	0	0	18	0	0	192	1.88
26	ライフル射撃	29	18	17	14	19	168	11.55
27	剣道	0	0	0	7.5	0	144	1.04
28	ラグビー	0	0	0	0	0	128	0.00
29	山岳	0	0	0	0	0	96	0.00
30	カヌー	11	15	9	10	9	352	3.07
31	アーチェリー	0	0	0	0	0	96	0.00
32	空手道	0	0	0	2.5	0	120	0.42
33	銃剣道	0	0	0	0	0	48	0.00
34	クレー射撃	0	0	0	0	0	48	0.00
35	なぎなた	0	0	0	0	0	96	0.00
36	ボウリング	0	0	0	0	0	240	0.00
37	ゴルフ	0	2.5	7.5	27	10.5	72	13.19
38	スキー	0	0	0	4.5	0	136	0.66
39	スケート	0	0	0	0	0	232	0.00
40	アイスホッケー	0	0	0	0	0	80	0.00
	合計	434.5	393.5	423	437	408.5	6,262	6.70
	天皇杯順位	33位	38位	34位	32位	34位		

国体で、天皇杯を獲得するには、最低でも2,000点の競技得点が必要であると考えられる。(過去5年間の天皇杯獲得都道府県の競技得点の平均2,317点)

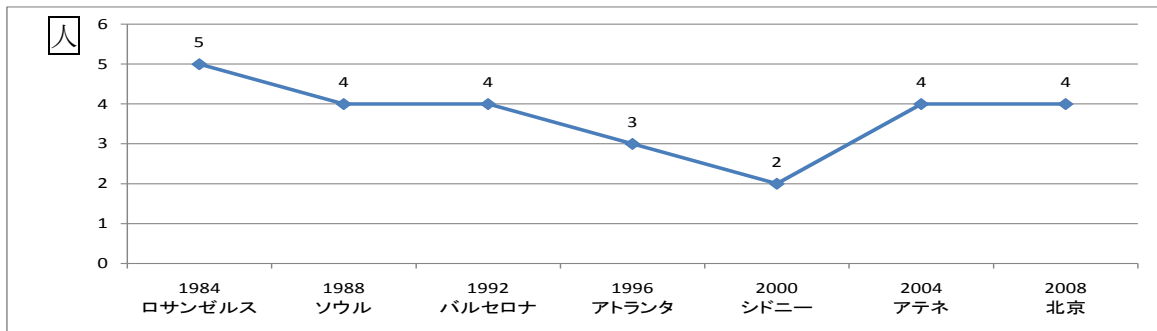
また、各競技の優勝得点を合計した最大得点は約6,300点であり、平均して各競技総得点の32%を獲得することが優勝の条件となる。

(3) 過去5年間における競技別総得点のうち本県の獲得状況

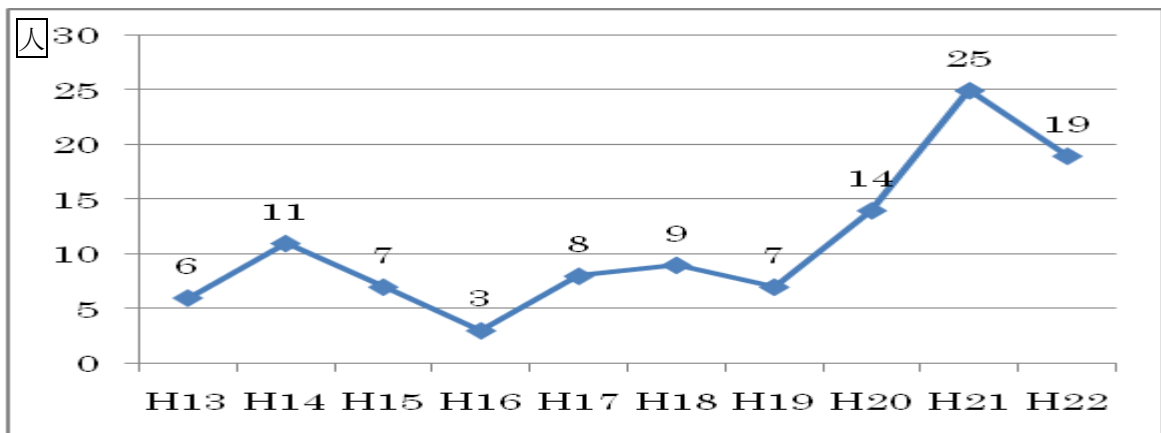
本県獲得割合状況	競 技 名
32%以上獲得競技	ボート
10%以上獲得競技	陸上、テニス、体操、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、フェンシング、ライフル射撃、ゴルフ
10%未満獲得競技	水泳、サッカー、ホッケー、ボクシング、バレーボール、バスケットボール、レスリング、セーリング、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、ラグビー、山岳、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、スキー、スケート、アイスホッケー

## 5 国際大会における本県出身選手の状況

(1) オリンピックへの本県出身選手の出場状況



(2) 国際大会での上位(1位~3位)入賞者数



オリンピックへの本県出身選手の出場状況は、1984年のロサンゼルス大会の5人をピークに2008年の北京大会まで連続して出場している。また、国際大会における入賞者数(1位~3位)は、平成13年から平成19年までは、10名程度であったが、その後は倍増してきた。